

## 素材作成手順

---

Edition Flex/CMS/BackStageで使用する素材の作成

## **1:** はじめに

本資料では Edition CMS/BackStageで登録し、Edition Flexで使用可能な素材の作成手順について解説します。

### **【対象システム】**

・Edition CMS/BackStage/Flex

### **【システムから出力されるファイルの仕様】**

・CMYK の4c 印刷用PDF

## 2: 素材の種類

Edition CMS/BackStageで使用可能な素材には、次のタイプがあります。

### 【PDF素材】

- ・PDFデータをそのまま素材として利用できます。
- ・PDF/X-1a印刷品質のPDFデータ

### 【ラスタ素材】

- ・JPEG、GIF、PNG形式が利用できます。
- ・ラスタデータなので、個々の印刷に適したサイズの画像を用意する必要があり、拡大した場合はジャギーが目立つことがあります。

### 【SVG素材】

- ・ベクターデータなので、拡大しても輪郭がきれいに表示されます(\*1)。
- ・Editionシリーズの素材として利用する場合は、CMYKの情報を埋め込むため、後述の手順で作成・加工する必要があります。

\*1: SVGデータ内にラスタデータを配置することができます。この場合、ラスタ部分についてはラスタ素材同様、拡大した場合はジャギーが目立つことがあります

## ラスター素材の作成

---

Edition Flex/CMS/BackStage 素材作成手順

### 3: ラスター素材の作成

ラスター素材はそのままEdition CMS/BackStageに登録して使用可能です。

#### 【使用可能なファイル形式】

- JPEG(.jpg)
- GIF(.gif)
- PNG(.png) \*透過設定も可能

#### 【ファイル名】

- Windowsのファイル名として使用可能な半角英数

#### 【カラーモード】

- CMYK

Editionシリーズから出力されるPDFは、特別な設定をしない限りCMYKカラーモードになります。

そのため、素材として登録する上記ラスター素材もCMYKカラーモードで作成・登録することを推奨します。

RGBカラーモードで登録されたラスター素材は、PDF出力時に色味が変わってしまいます。

## PDF素材の作成

---

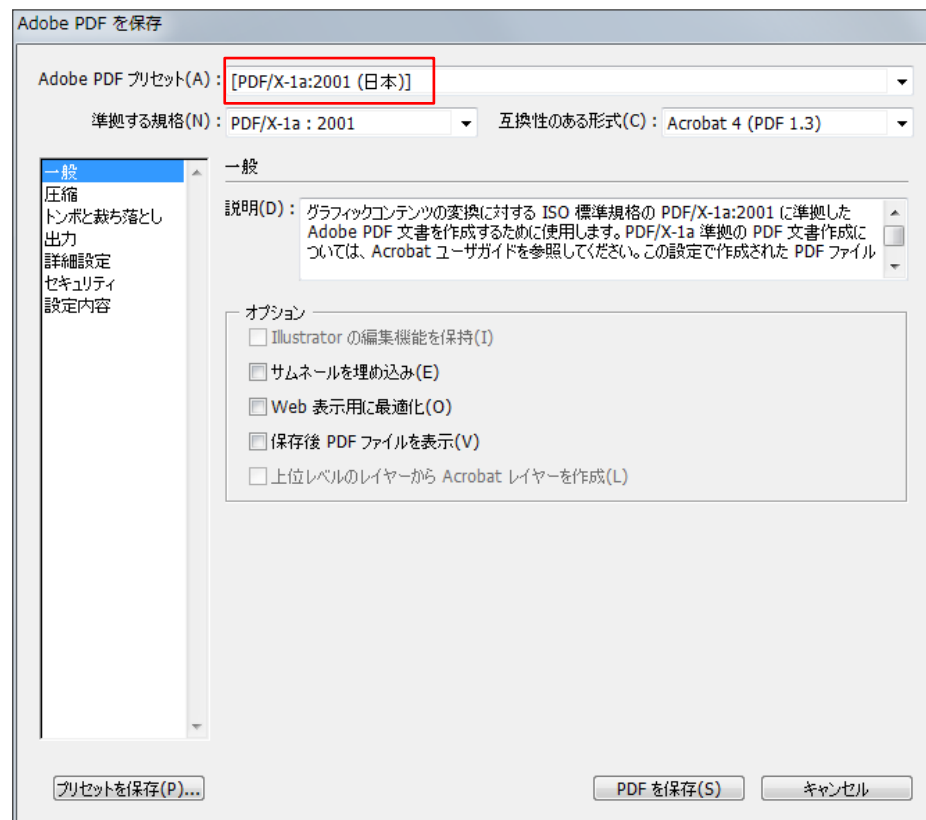
Edition Flex/CMS/BackStage 素材作成手順

## 4: PDF素材の作成

PDF素材はそのままEdition CMS/BackStageに登録して使用可能です。

### 【イラストレータでPDFを作成する場合の留意点】

- ・カラーモードはCMYK
- ・素材のサイズ=PDFのサイズ=アートボードのサイズ
- ・ラスター画像を配置する場合は、印刷に適した解像度の画像を配置
- ・フォントは埋め込み
- ・PDFバージョンはEdition Flexの設定に合わせる(デフォルトは1.4)



Illustrator CS5のPDF保存設定ダイアログ

プリセットで「PDF/X-1a:2001 (日本)」を選択すると、素材に適した標準的な設定になります。

## SVG素材の作成

---

Edition Flex/CMS/BackStage 素材作成手順



## 5-1: SVG素材の作成

Edition シリーズで使用可能なSVG素材の作成手順について解説します。

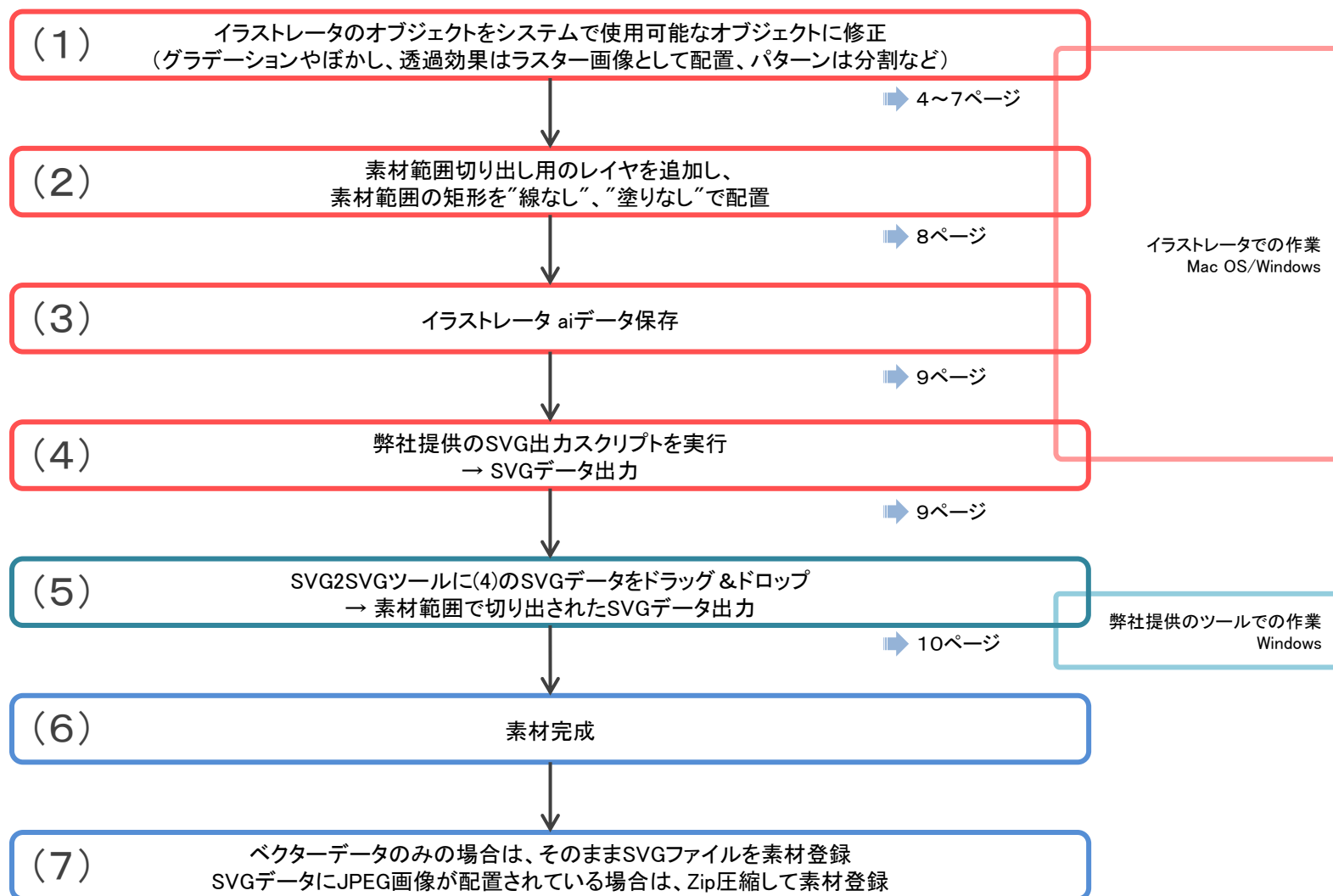
### 【使用するファイル形式】

- SVGデータ(.svg)
  - レイアウト(ベクター)ファイルの本体
  - SVG の仕様で、元ファイルのイラストレーターのレイヤー名に「¥/\*?"<>」を使うとエラーになる場合があります
- JPEG画像(.jpg)
  - SVGデータ上に配置するラスタ画像
  - イラストレーターでの配置方法はリンク
  - カラーモードはCMYK
  - EPS 形式のJPEG は不可
- Zip圧縮(.zip)
  - SVG とJPG の圧縮に使用します
  - フォルダに入れず、ファイルを直接指定して圧縮します
- 全ファイル形式共通
  - ファイル名はWindows で使用可能な半角英数を使用します

### 【必要なアプリケーション】

- Adobe Illustrator (CS2以降を推奨)
- Illustrator のスクリプト
  - 「書類をCMYK のSVG として保存」
- SVG2SVG
  - SVG 変換プログラム

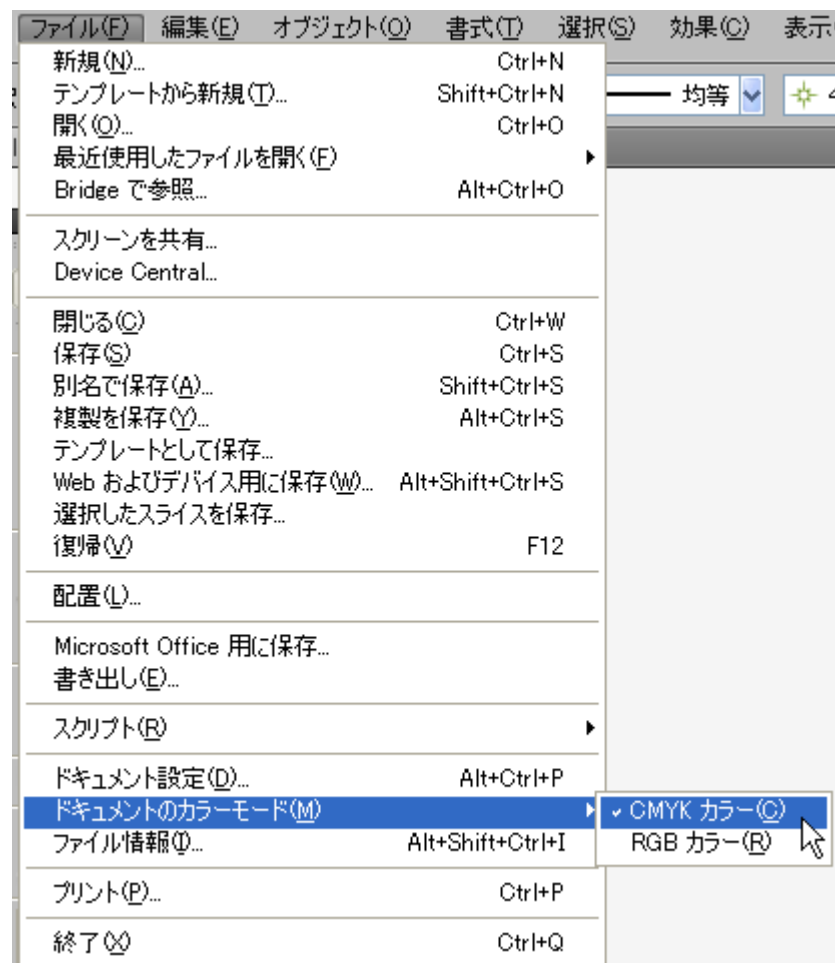
## 5-2: SVG素材作成の流れ



## 5-3: デザイン作成(1)

1) カラーモードはCMYKを選択します。

Illustrator: [ファイル]メニュー > [ドキュメントのカラーモード] > [CMYK カラー]



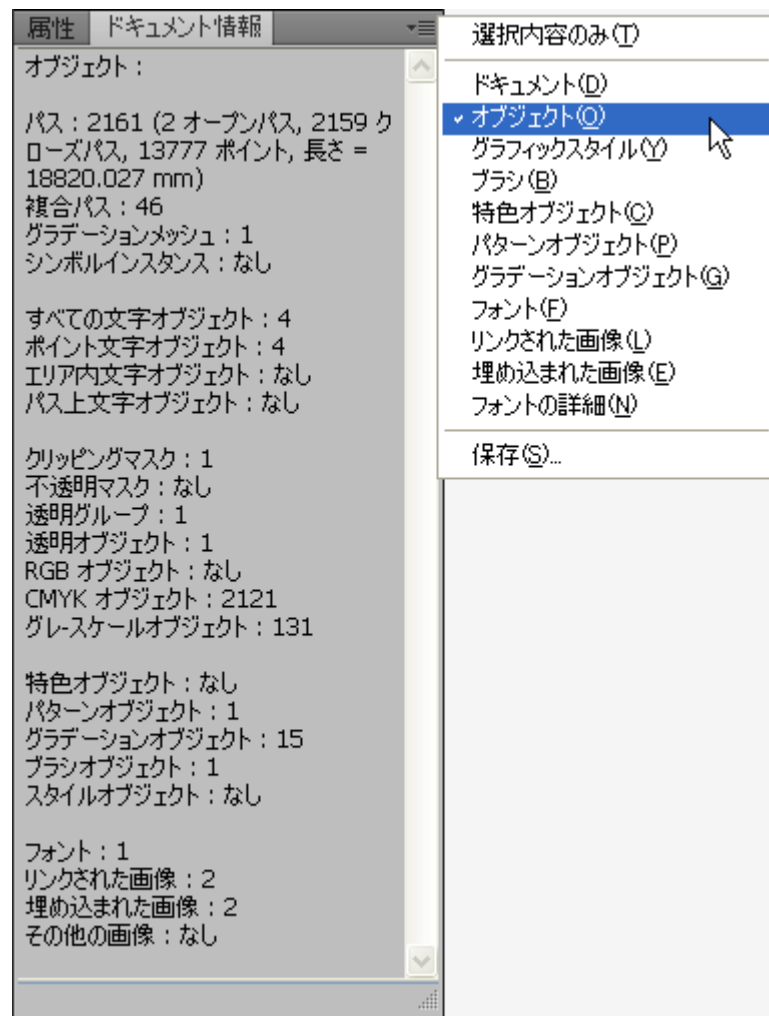
※Illustratorのメニューの表記はCS5のもので、バージョンによって異なる場合があります。

## 5-3: デザイン作成(2)

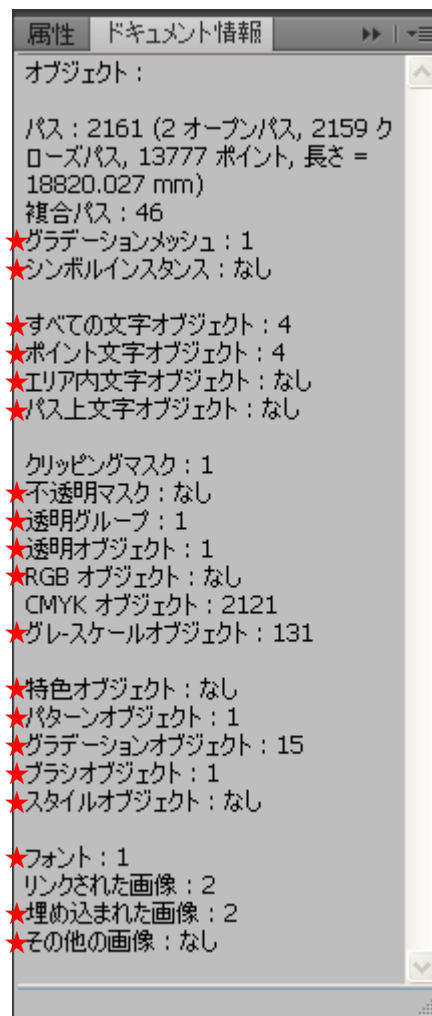
2-1) ドキュメント情報ウインドウを表示してデザインの内容を確認します。

Illustrator: [ウインドウ]メニュー > [ドキュメント情報]

★表示内容を「オブジェクト」にし、「選択内容のみ」のチェックを外します。



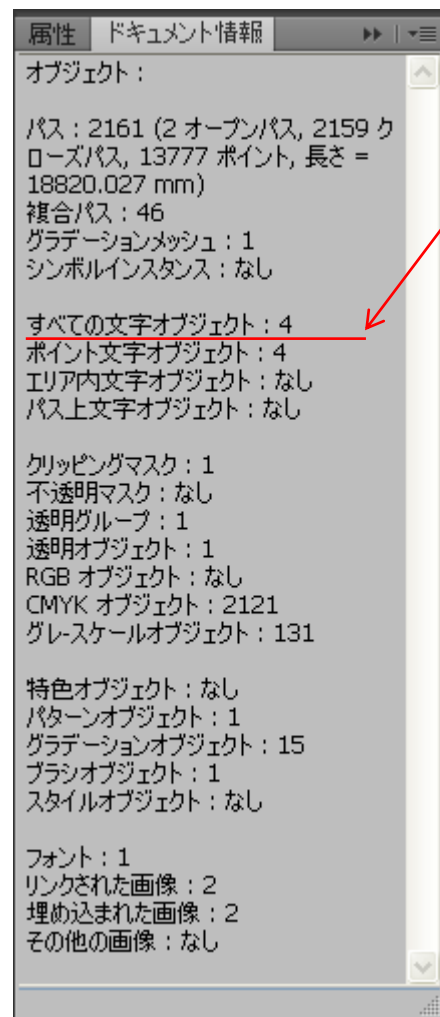
2-2) 最終的に下図のようにドキュメント情報ウインドウの★印の項目が「なし」になるようにオブジェクトを修正します。



※Illustratorのメニューの表記はCS5のもので、バージョンによって異なる場合があります。

## 5-3: デザイン作成(3)

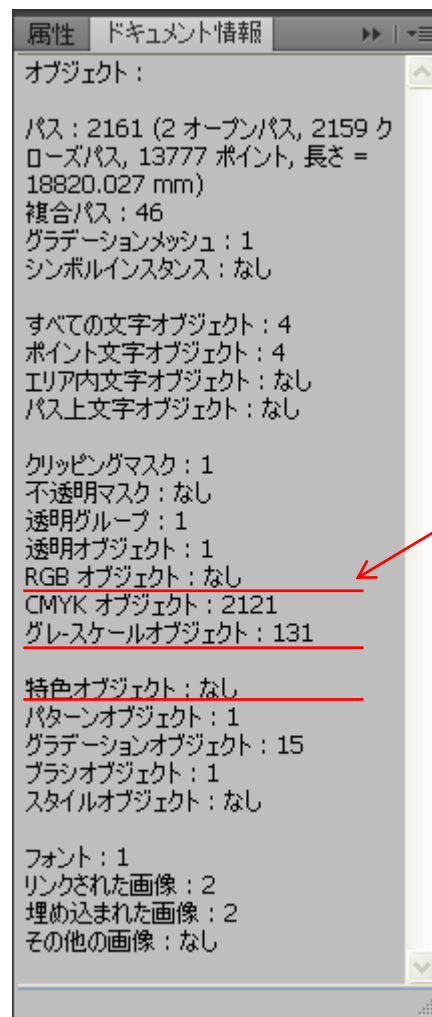
2-3) ドキュメント情報を確認し、文字オブジェクトがある場合はアウトライン化します。



文字が含まれている場合は、文字をアウトライン化してください。

Illustrator: [書式]メニュー > [アウトラインを作成]

2-4) ドキュメント情報を確認し、CMYK以外のカラーオブジェクトがある場合はCMYKカラーに変換します。



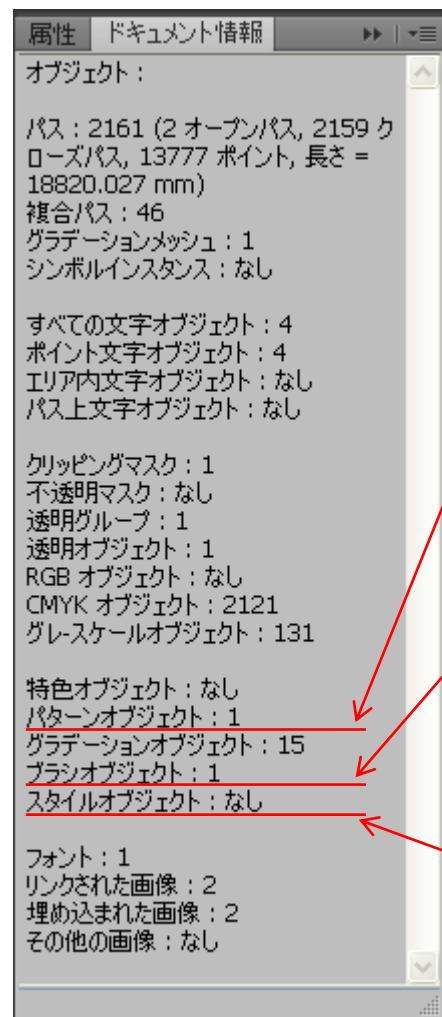
RGB、グレースケール、特色など、CMYK以外のカラーのオブジェクトが含まれている場合は、全てのオブジェクトをCMYKカラーに変換してください。

Illustrator: [フィルタ]メニュー > [カラー] > [CMYKに変換]

※Illustratorのメニューの表記はCS5のもので、バージョンによって異なる場合があります。

## 5-3: デザイン作成(4)

2-5) ドキュメント情報を確認し、パターン、ブラシ、スタイルオブジェクトがある場合は分割します。



パターンオブジェクトは線と塗りに分割してください。

Illustrator: [オブジェクト]メニュー  
> [分割・拡張]

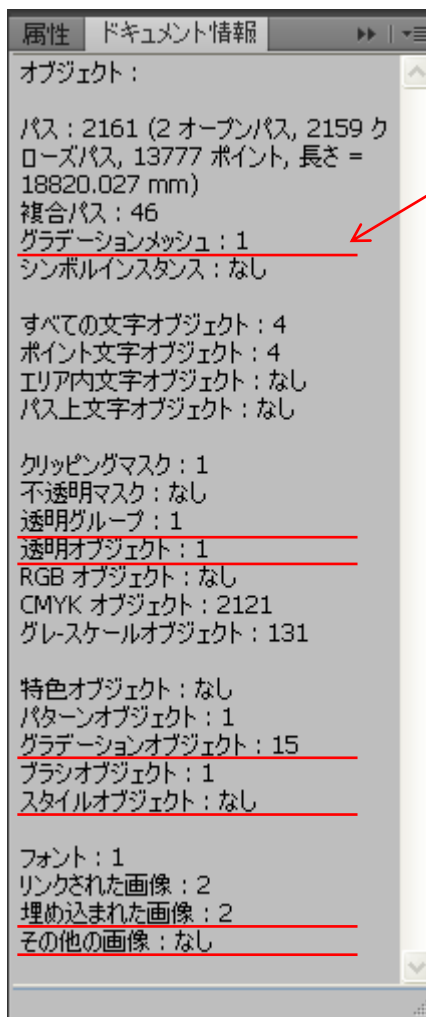
ブラシオブジェクトはアピアランスを分割してください。

Illustrator: [オブジェクト]メニュー  
> [アピアランスを分割]

スタイルオブジェクトはアピアランスを分割してください。

Illustrator: [オブジェクト]メニュー  
> [アピアランスを分割]

2-6) ドキュメント情報を確認し、グラデーションや透明オブジェクト、リンク以外の画像がある場合はデザインをJPEG画像に変換して配置します。



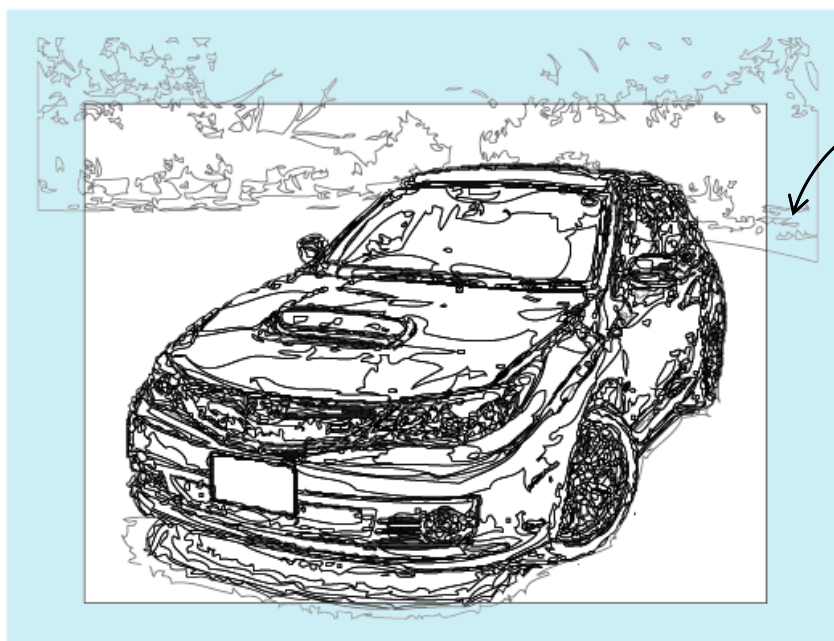
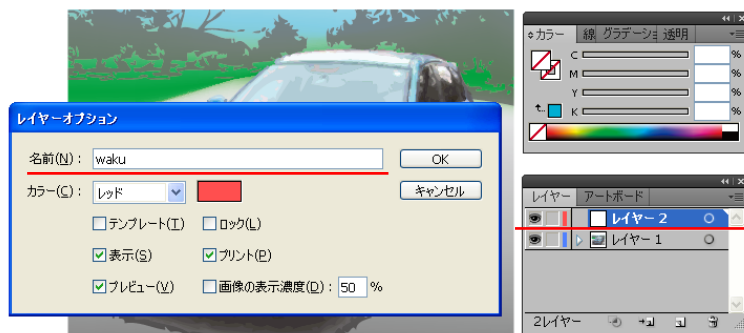
グラデーションメッシュ、透明グループ、透明オブジェクト、グラデーションオブジェクト、スタイルオブジェクト、埋め込まれた画像、その他の画像が含まれている場合は、デザインをJPEG画像に変換して配置してください。

## 5-3: デザイン作成(5)

一番上に素材範囲切り出し用のレイヤを追加して、素材範囲の矩形(線なし、塗りなし)を配置します。

SVGデータをプリント範囲でクリッピングする為に必要です。  
この操作をしない場合は、アートボードのサイズでSVGが出力されます。

★レイヤ名にはSVG2SVGで設定したもの(13ページ「サイズ調整」タブ 参照)を入力してください。



プリント範囲に含まれないオブジェクトを除くために必要です。

## 5-4: SVG出力

★スクリプトを実行すると、表示されているデータがSVG形式に変換されます。今後の修正などを考慮して、**スクリプト実行前にイラストレータ形式(.ai)で保存**しておいてください。

1) スクリプトを実行します。

Illustrator: [ファイル]メニュー>[スクリプト]>[その他のスクリプト]

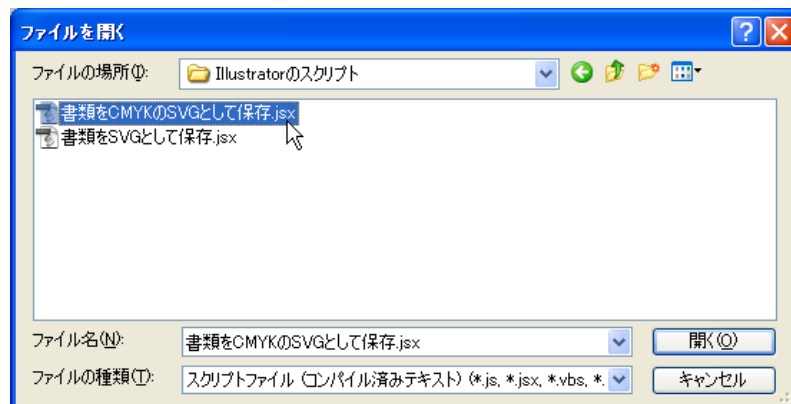
2) ファイル選択ダイアログが表示されますので、弊社から提供しましたスクリプト”書類をCMYKのSVGとして保存.jsx”を選択します。

3) SVG出力が完了すると <出力したSVGファイルパス> -> 0 というダイアログが表示されますので、[OK]ボタンを押します。

1)



2)



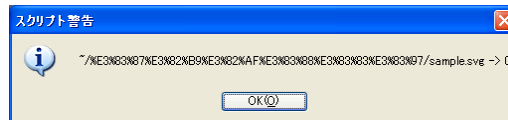
3)



★Illustrator CS以前のバージョンで使用する場合はスクリプトの拡張子をjsに変更してください。

★スクリプトファイルを、Illustrator のスクリプトフォルダ  
 C:\Program Files\Adobe\Illustrator XX¥プリセット¥スクリプト¥  
 に置きますと[ファイル]メニュー>[スクリプト]の中に表示されますので便利です。

★.aiファイルの保存先が日本語フォルダの場合、3)のダイアログボックスの表示が下図のようなコードで表示されますが、変換は正常終了しております。



※Illustratorのメニューの表記はCS5のもので、バージョンによって異なる場合があります。

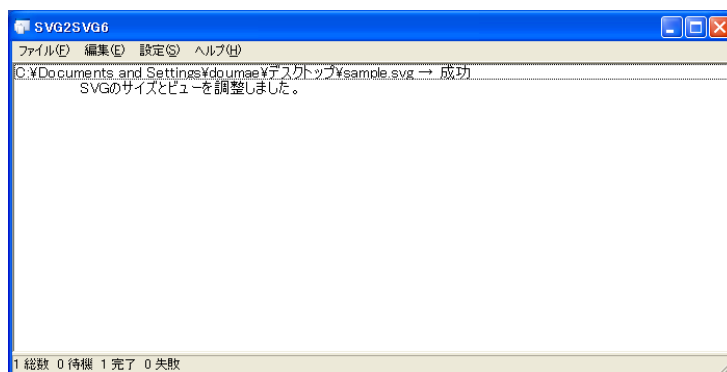
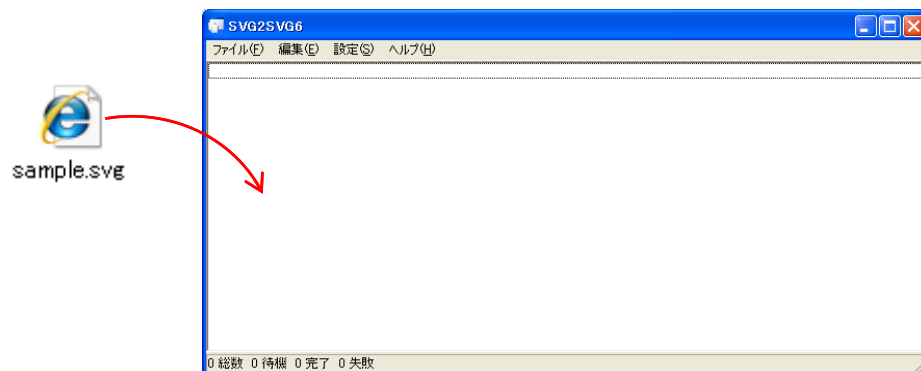


## 5-5: SVG変換

弊社提供のツール「SVG2SVG」を使用して、システムで使用可能なSVGに変換します。

- ★SVG2SVGはWindowsで動作するプログラムです。
- ★はじめての作業前に12ページからの設定を実施してください。

- 1) イラストレータから出力したSVGデータをSVG2SVGのウィンドウにドロップします。
- 2) 変換結果のメッセージに「成功」と表示されれば、SVG変換終了です。設定した出力先に変換後のSVGデータが保存されます。



メッセージエリアに「エラー」と表示された場合は、次の行に原因が表示されますので確認、修正してください。

よくあるエラーの原因としては、配置した画像がSVGデータと同一フォルダ内に存在しない場合があります。

★エラーの内容がわからない場合はお問い合わせください。

## 5-6: アップロードするファイルの準備

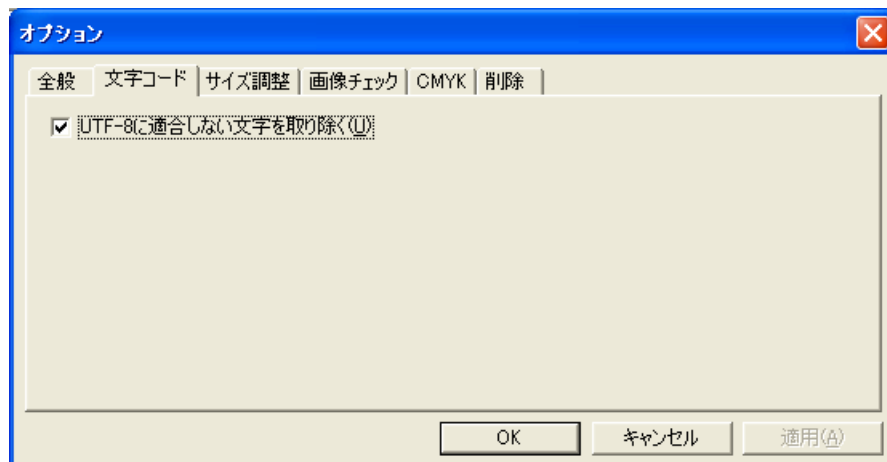
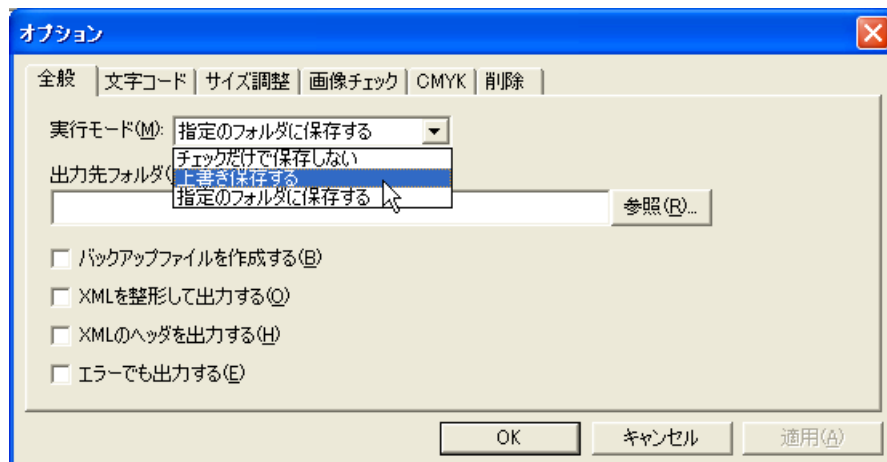
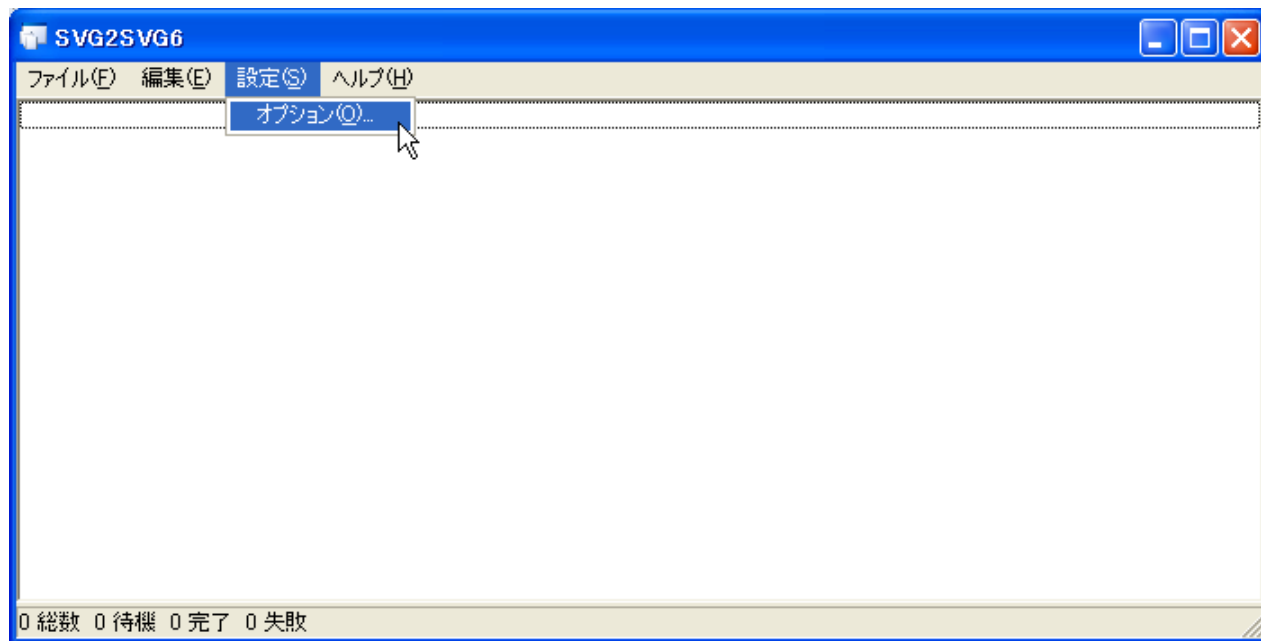
Edition CMS/BackStage にアップロードする素材は、1素材1ファイルとなります。次のようにして1つのファイルにまとめます。

- 1) SVGファイルのみ、またはJPEGファイルのみで完成しているデータはそのままアップロードできます。
- 2) SVGファイルに画像が配置してある場合は、下記ファイルをZip形式で圧縮して1つのファイルにまとめます。

- .svgファイル
  - SVG上に配置されているリンク画像の.jpgファイル
  - 画面表示用低解像度.jpg.small.jpgファイル(推奨)
- } .zipファイル

## 5-7: SVG2SVGの設定(1)

SVG2SVGの「設定」メニューから「オプション」を選択し、オプションダイアログを表示します。  
各タブの項目を下図のように設定します。



## 5-7: SVG2SVGの設定(2)

